

県立但馬技術大学校(豊岡市九日市上町)に昨年4月新設された1年制の「総合ビジネス学科」で、第1期生7人全員が就職を決め、同学科初年度の就職率100%を達成した。観光やデザイン分野で活躍する、地元の人材育成を目的とした授業を通じて、学生たちは地域で働く意義を見いだした様子で、全員が但馬での仕事を選んだ。2期生も既に定員に達し、募集を締め切る人気ぶりという。

(阿部江利)

## 但馬技術大学校総合ビジネス学科

# 1期生全員地元で就職

就労に向けた職業訓練を行う同大学校で、新学科開設は初めて。希望者が多い事務職を目指す人向けに作られた。授業料は無料で、定員20人。但馬の企業や観光業で活躍できる人材育成を目指し、高卒者を対象にパソコン操作や秘書業務、税務などを教える。

新学科の特色は、学外から非常勤講師を招き、観光などの生きた情報に触れられる教育内容。初年度はパソコン操作や税務、秘書業務、「観光概論」などに、地元の経営者や観光ガイドら約20人が務め、座学だけでなく実習も実施した。

## 観光分野などで活躍へ



地元での就職を決めた「総合ビジネス学科」の1期生たち  
＝但馬技術大学校

外部講師らは、但馬の小企業が苦手な情報の外部集ソフトや会員制交流サイト

ト(SNS)、写真共有アプリ「インスタグラム」などの使い方を伝授。城崎温泉などの観光地では、現場を案内し、給与明細の読み解き方やコミュニケーション方法なども指導した。

第1期の入学者は11人で、うち2人は途中で就職。進路変更で退校した2人を除く7人は、こうした授業を経て、全員が但馬地域での就職を決めた。観光業や地方自治体、事務職などに就く。

新学科を担当する同校の職業教育専門員、富田満さん(58)は「初年度なので就職先を心配する声もあったが、学生らの努力や外部講師の協力もあって実績を上げられた」と振り返り、「一言に事務と言ってもいろいろな仕事があり、それぞれの面白さを感じてもらえたのは。卒業後も地元を樂しみながら力を磨いて」とエールを送る。

1年の学びを終え、全員が地元での就職を決めた、但馬技術大学校の「総合ビジネス学科」1期生たち。進路の決め手や今後の目標を聞いた。

観光業で接客の仕事をする予定の野田華音さん(19)は、「高校卒業後に大学に行く理由もないが、就職するにもスキル(技能)が足りない」と同学科に進んだ。「最初は明確なビジョンもなく、自分はいったどこへ行くんだろうと不安だった。観光業に就くことになるとは全く思っていなかった」と笑う。

授業で城崎温泉などに足を運ぶ中で関心を持つようになり、企業説明会で「ここで働きたい」と感じたという。「礼儀作法やストレスの乗り越え方も学べたのは大きい。周りをしっかり見て、先輩方の言われることを吸収できるような頑張りたい」と

### 1期生が思い語る

## 地域で働く意義見いだす

「親元を離れたくない」と、地元但馬での就職を目指した濱本凌維さん(19)は、電車通学の時間を生かして試験勉強に励み、公務員試験に合格した。「経営や観光に興味があったが、現場に足を運ぶ中で、観光をより身近に感じられるようになった」と話す。

同様に地元での就職を希望した坪内郁也さん(19)は、外部講師の話聞いて社会保険労務士の仕事に憧れ、講師の事務所です事務職をしながら、試験合格を目指すことに。「最初は資格の名前を聞いたことがあるくらいだったが、知識の広さや地元企業の役に立てるところに憧れた」という。「授業では礼儀作法なども学べた。どんどん経験を積み、地元企業の皆さんから頼られる人になりたい」と将来を見据える。

(阿部江利)